

より密接な地域医療連携をめざして

地域医療連携室

Office of Community

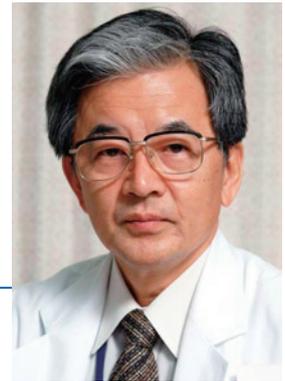
だより

2018 VOL. 12

院長挨拶

地域医療連携室だよりに寄せて

奈良県立医科大学附属病院院長 古家 仁



最近のわが国の病院や診療所の医療情勢は非常に厳しい状況にあります。それは大学病院も同じです。特に、昨年から国の方針により、地域医療構想の実現に向けて各病院の機能を明確にし、それぞれの役割を果たすことが求められています。そして、その実現のために単に病院独自の意思で役割を担うだけでなく、診療報酬で誘導することによって実現せざるを得ない状況になってきています。

本学附属病院は高度急性期、急性期機能を主とすることが求められていますが、現実には特定機能病院として先進医療を提供するだけでなく、地域の病院として地域医療の提供も使命としており、都会の大学病院のように急性期だけに特化することは困難であり、急性期から回復期まで数多くの患者を受けているのが現状です。

しかし、今後は地域医療構想の役割が重要視され、診療報酬の誘導によって、より多くの急性期の患者を受け入れ、また急性期の治療が一段落した時点で、患者を地域の回復期および慢性期の病院に繋ぐことによって、患者の回復を図っていくことになります。

具体的には、より多くの救急患者を受け入れ、病病連携、病診連携による急性期治療が必要な紹介患者の受け入れ、急性期が一段落した患者の紹介元医療機関への逆紹介や場合によっては別の機能を有する紹介元以外の病院や診療所への逆紹介を推進することになります。

また、入院患者に関しては、入院早期から退院後の生活を見据えて、医療、介護・福祉など、関連機関と連携し、受け入れ先相談をし始めるなど、入院前から退院まで一貫した入退院支援を行うことにより、急性期病院としての機能をより明確に果たすことが求められています。

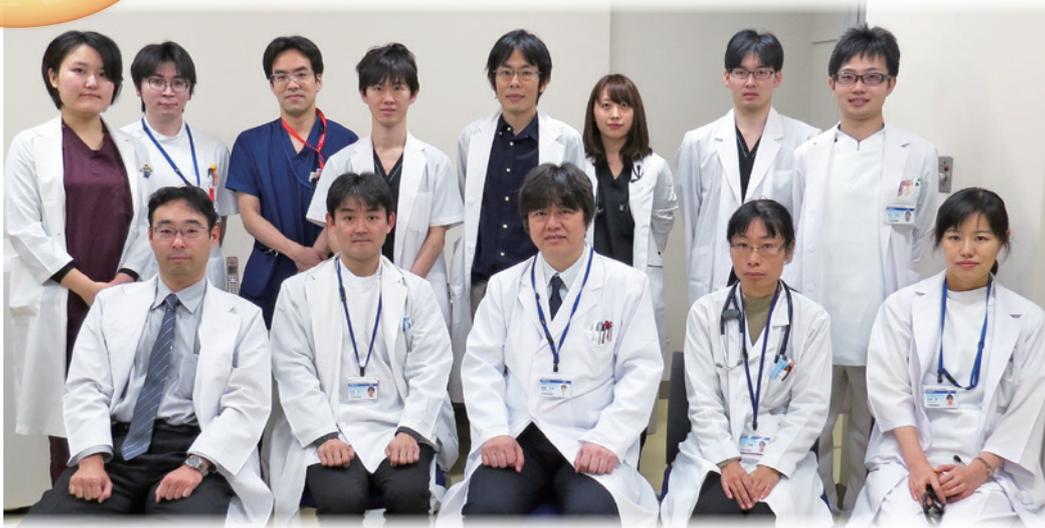
地域医療連携室は、このような紹介、逆紹介、入退院支援に関して、大学病院の要となる部署であり、この部署の機能の充実によって、大学病院の機能が果たされるといっても過言ではありません。

「地域医療連携室だより」はこういった大学の役割、地域医療連携室の役割を多くの方に知っていただくために発行しています。どうぞ診療の参考にさせていただきたいと思います。

診療科紹介

腎臓内科

腎臓内科が始動致しました



平素より、多くの患者の御紹介ならびに転院の受け入れに御尽力頂き、誠にありがとうございます。2018年1月から腎臓内科は県内の腎疾患診療を担う拠点として新たに始動致しました。当科では、検診で異常を指摘された蛋白尿・血尿から腎機能障害ならびに透析導入を要する末期腎不全など幅広い腎疾患に対応しており、地域の医療機関との連携を密にすることで、腎疾患診療の早期治療に取り組んでいくことを目標にしております。

●検尿異常（特に蛋白尿）のある慢性腎臓病（CKD）症例

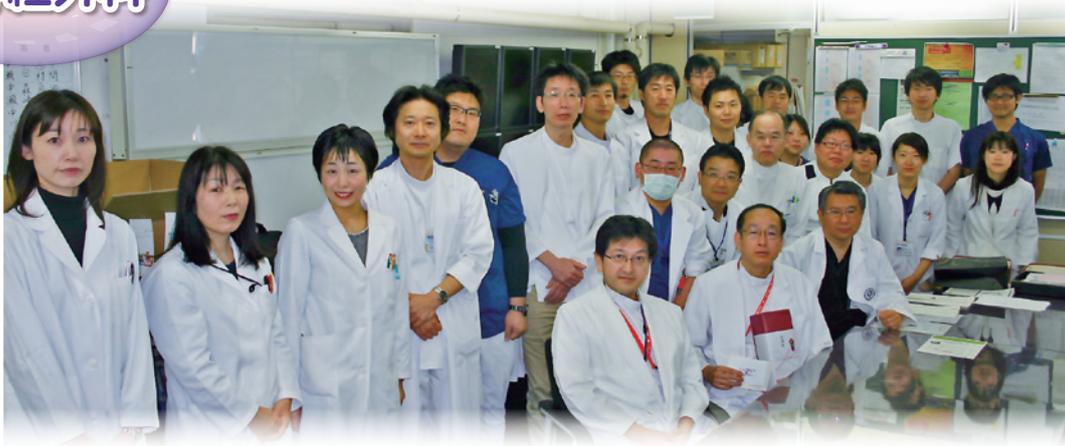
検尿異常の原因には、慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群をはじめ、膠原病や生活習慣病である糖尿病や高血圧による腎障害などがあります。その原因精査のために当科では腎生検を積極的に施行し、得られた腎組織から診断病名を確定します。一般的な腎生検目的の入院は水曜日とし、翌日に腎生検を施行し、週末に退院するといった流れで施行しております。病理組織所見や症例カンファレンスを通じて、その患者に最も適した治療を選択し、その後は御紹介頂いた先生方とともに診療しております。

●高度腎障害（例えば、eGFR 30mL/min 未満など）を有する CKD 症例

高度腎障害を有する CKD 症例では、主に血圧管理や血糖管理などの生活習慣病の管理が中心となることが多いです。そのため、管理栄養士の食事指導や看護師の生活指導のもと、患者個々の病態に適した CKD 管理を実施しております。これら多職種間の協力体制を築き上げることで、患者の腎疾患の進行を少しでも遷延させることを目指しております。また、さらに腎障害が増悪すれば、看護師ならびに医師より血液透析・腹膜透析・腎移植に関する必要な情報を御提供させて頂き、その上で、患者の希望に沿った形で適切な治療法選択を実践しております。血液透析を選択された患者は当院の地域医療連携室を通じて、近隣の維持透析施設へ御紹介させていただきます。

その他、急激に腎機能が低下する急性腎障害や透析患者の各種疾病に対しても他科と連携して診療しております。奈良県の腎疾患診療を高めるために、当科は積極的に病診連携に取り組み、その中で地域診療を支えて頂いている勤務医や開業医の諸先生方とともに連携を強化できるような協力体制を築きたいと考えております。まずは、貴施設で気になる症例や御相談したい症例から、気兼ねなく、御連絡ならびに御紹介頂ければと思いますので、宜しく申し上げます。

脳神経外科



平素は当科の診療活動にご協力いただきまして誠にありがとうございます。脳神経外科についてご紹介いたします。

脳神経外科がカバーする疾患は多岐にわたります。その中でも脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷などが有名である一方、小児疾患、てんかん、脊椎・脊髄疾患を有する患者も数多くいらっしゃいます。当科ではこれらすべてを診療できる体制を有しております。平成29年度の総手術件数は約800件で、全国の脳神経外科の中でもトップクラスの症例数を誇ります。

脳神経外科救急として、脳卒中の診療体制は重要であると考えています。脳卒中診療では専用の脳卒中センターでの治療が有意に成績良好であったとする報告が数多くある中、これまで県内には脳卒中センターがありませんでした。これに対し平成29年10月より大学内に脳卒中センターが開設され、神経内科と共同で可能な限りすべての脳卒中に対応する体制が完成しました。24時間体制で脳卒中専門医が診療に当たっており、近隣の病院からの受け入れ態勢も充実しています。脳卒中診療では時間との戦いになりますので、脳卒中の疑われる患者については遠慮なくご連絡ください。

脳腫瘍については手術のみならず、後療法としての化学療法および放射線療法を含め包括的かつ集学的治療を関係各科との協力のもと実施しています。初発例のみならず再発例も含め、ご紹介いただければ幸いです。

高齢化社会が進むにつれて変性疾患である脊椎病変は増加傾向にあります。当科では患者の病態に最も適した方法で手術を施行しております。

小児脳神経外科領域およびてんかんの外科治療は県内で唯一当科のみで施行可能です。専門的知識の要求される領域であり手術適応の判断が難しい症例も多くあります。治療方法のご相談だけでも結構ですので、遠慮なくご連絡ください。

当科ではすべての手術症例に対して毎週行っているカンファレンスにて全員で治療方針を検討しています。ガイドラインに基づく標準治療と大学病院ならではの先端治療の良いところを組み合わせた治療を、患者それぞれにオーダーメイド的に提案しています。患者とご家族に納得いただける治療を目指すため、今後もアクティブな診療を進めていきます。

我々の理念を実現するためには、近隣の医療機関との連携は必須と考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

放射線科



平素より多くの貴重な症例をご紹介いただき、誠にありがとうございます。当院では放射線診療に携わる臨床科として放射線科と放射線治療科の二つがあり、その両者を統括するのが中央放射線部です。放射線科は画像診断とカテーテルを用いた画像下治療(IVR)を行ってきましたが、各々の規模が拡大したこと、業務の効率化が求められたことから、2014年7月にIVRセンターが、2016年4月に総合画像診断センターが設立されました。

画像診断部門では、脳神経・頭頸部領域、胸部領域、腹部・血管・骨盤領域など広い範囲をカバーし、診療と研究にあたっています。MRIは3Tを含む4台を保有し、年間約15,000例を撮像、全例を画像診断専門医が読影しています。また、8台のCTでは、年間約40,000例という多数の検査が行われ、ほぼすべての症例で専門医が診断に携わっています。消化管造影も国内での撮影・読影の標準化などに携わりつつ、高精度の診療維持を目指しています。総合画像診断センターでは年間約14,000例の造影やエラストグラフィを含めた超音波検査を超音波専門医・指導医5名と超音波検査士3名を含むスタッフが行っています。2017年4月からは前年にE棟に新設されたPET-CTの稼働に伴い、核医学検査の読影も担当

しており、各種モダリティを有効に組み合わせた精度の高い総合画像診断を通じて、臨床各科の先生、当院に紹介いただいた連携先の先生方のお役に立てるよう日々努力しています。

IVRセンターでは、脳神経、循環器、大血管・末梢血管、腫瘍、救急など全ての領域の画像下治療(IVR)を包括しており、心臓領域を循環器内科の先生が、脳神経領域を脳神経外科の先生と放射線科医が共同で行っている以外は、他の領域は放射線科医が担当しています。

スタッフは、IVR施行医、診療放射線技師、看護師、臨床工学技士、診療情報管理士で構成され、医師は放射線科30名のうち約半数(IVR学会専門医は8名)がIVR主体の診療業務に従事しており、24時間365日迅速な救急IVR患者の受け入れが可能です。

IVRは専門領域により細分化され、大動脈・末梢動脈を担当する血管IVRグループ、腫瘍・ドレーナージを担当するオンコロジーIVRグループ、脳神経を担当するNeuro IVRグループに分かれており、年間登録件数は約1500件で国内屈指の症例数です。

IVRの内訳は、外傷や消化管出血、腫瘍に対する血管塞栓術、下肢閉塞性動脈硬化症に対する末梢血管PTA、胸部・腹部大動脈瘤に対する大動脈ステン

トグラフト治療、ドレナージ術、脳動脈瘤コイル塞栓術、CAS など多岐にわたっており、最近では子宮筋腫に対する塞栓術、肩関節症に対する疼痛軽減を目的とした塞栓術を始めており、外来 IVR として、CV ポート留置や肺生検も行っています。

放射線科では、曜日ごとに各専門領域別の IVR 外来を設置し、新規紹介患者の診察・治療説明、治療後の経過観察を行っています。病棟は心臓血管外科との混合病棟で15床を運用しており、IVR センター

で行う IVR 治療の約4割が放射線科の入院患者です。可能な限り IVR 周術期マネージメント、外来でのフォローアップを放射線科 IVR 医が行うように努めています。

今後も県内の拠点病院として、病診連携のもと、精度の高い画像診断・IVR の実践に努めていく所存ですので、地域医療連携室を介して御気軽にお声をかけて下さいますようお願い申し上げます。

紹介元医療機関への返書報告に取り組んでいます

当院の患者紹介率は93%で、年間約20,000件の紹介を頂いております。日頃の支援・連携に感謝致します。

紹介、逆紹介を推進し、安心して患者さんを紹介していただくためにも、紹介元への丁寧な報告書(返書)は大変重要と考えております。

しかしながら、紹介後の報告書(返書)については、院内で明確なルールがなく、診療科及び担当医に委ねられているのが現状であり、紹介医から受診確認や経過についてのお問合せを頂くことがあります。

当院として、これらのことを重く受けとめ、紹介元医療機関への報告の徹底に病院挙げて取り組んでいるところです。

平成29年8月から、紹介患者さん全員の「受診報告書」による報告を一元的に行っておりますが、紹介医が求める本来の経過報告や診療終了時の報告に向け、書式の整理や返書システムを再構築し、院内会議等において適切な運用の周知と徹底を図っております。

ご理解とご協力を賜りますようお願い致します。



医療機関連携

まずはご登録ください

奈良医大地域医療連携室では、オンライン予約システム
地域医療連携サービス『C@RNA Connect』
を導入しています!

診察予約を依頼するとき、
こんなことはありませんか?

- 夜間診療の時間帯で
予約の手続きが翌日に持ち越してしまう
- 患者さんに改めて
予約票を取りに来てもらうことになる
- 予約後、
改めて診療情報提供書をFAXするなんて面倒!
- ...



先生!!
『C@RNA Connect』を
ご利用ください!



『C@RNA Connect』なら...

24時間、土日祝日 も対応

簡単 **3STEP** その場で予約が完了します!

STEP 1

『C@RNA Connect』にログインし、
依頼診療科のカレンダーから
予約日時を決定



STEP 2

患者情報及び、診療情報を入力
印刷したものを診療情報提供書としてお使いいただけます※



詳細な診療情報は、
後からでも入力できます



※受診時、診療情報提供書の原本が必要です。
患者さんに封書でお渡しください。

STEP 3

予約票を印刷して
その場で患者さんに手渡し



改めて、FAX送信をする必要はありません。

奈良医大地域医療連携室では
入力頂いた内容を『C@RNA Connect』を通じて確認いたします。
検査データや、別の書式で作成されたものを添付することも可能です。

ご利用には事前のユーザー登録が必要となります。

登録手続きには2週間程度かかりますので、いつでもお使いいただけるよう、事前のお手続きをお勧めいたします。

●詳細は、当室のホームページをご確認ください。

<http://www.named-u.ac.jp/~chiiki/>

★「興味がある」「使い方を知りたい」等

担当者が直接ご説明いたします。

(貴院を訪問させていただくことも可能です)

お気軽にご連絡ください。

☎ 0744-29-8022 (地域医療連携室直通)

担当：医療機関連携係 向井



平成29年10月より、
あらたに5名のメンバーが仲間入りしました。
主に、以下の業務を担当しています。

- 紹介患者さんの診療予約
- 「紹介患者受診報告書（事務連絡）」FAX送信
- 他の医療機関へ紹介する患者さんの予約手続き



皆様、どうぞよろしくお願いいたします！

奈良県立医科大学附属病院 地域医療連携室 〒634-8522 奈良県橿原市四条町840

TEL:0744-22-3051(代) / 0744-29-8022(直通) FAX:0744-23-9923